

3. 同窓会の歩み

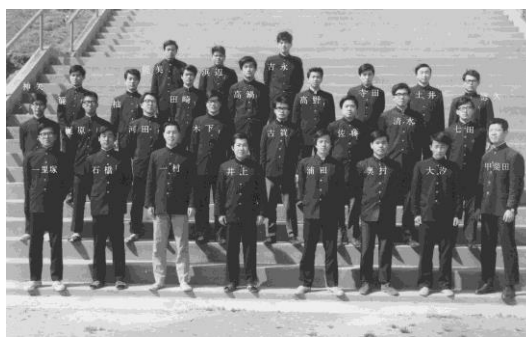
(1) 草創期

昭和45年3月19日、機械工学科67人と電気工学科34人の誉れ高き第1期生が卒業した。当初より卒業生の集いである同窓会を立ち上げなければならないとの気運はあったが、ほとんどの卒業生が関東および関西の大企業に就職するという状況の中ではすぐに立ち上げることができなかった。その中で地元就職した卒業生を中心に同窓会立ち上げの準備を行い、昭和48年3月第4期生の卒業を機に機械工学科1期生の香月洋一氏を初代会長として同窓会が設立され、4月1日から会則が施行された。事務局は高専に就職した機械工学科2期の樫村秀男氏が務め、北九州市役所などの地元就職した卒業生で運営を開始した。しかし、卒業生のほとんどが北九州を離れており、また、草創の卒業生として就職先での実績を積むために必死に仕事に励む卒業生にとっては、母校や同窓会を振り返る余裕がないのが当然で、会の活動といっても数名の参加者による理事会を開催することしかできなかった。

昭和52年には、第2代会長に電気工学科1期生の木下学氏が就任し、情報を集めるのに困難を要したが、念願であった同窓会会員名簿を発行することができた。昭和56年には機械工学科3期生の吉田充氏が第3代会長に就任。総会を企画するなど会の活性化を図ったが、実質的な同窓会活動をするまでには行かなかった。しかし、この間も事務局の樫村氏らが卒業時に必死に集めた同窓会入会金で、卒業生への記念品および卒業式壮行会への支援を継続して行なってきており、その伝統は現在まで受継がれている。当時の記念品は印鑑であったが、現在では卒業証書ケースとなっており、ケースの裏側には「北九州高専同窓会」と刻印してある。



機械工学科1期1組(5年生)



機械工学科1期2組(5年生)



電気工学科1期(5年生)

(2) 中興の祖

同窓会に転機が訪れたのは、平成2年学校創設25周年の記念事業のときである。記念事業応援のために福岡在住の卒業生の代表が学校から招集された。

代表者に電気工学科 1 期の小出和男氏、その他機械工学科 2 期の立花幸夫氏、同 3 期の同窓会長吉田充氏、同 4 期の中村信彦氏、電気工学科 2 期の岩田義夫氏、化学工学科 1 期の長野正美氏などを中心に記念事業を支援させていただくことになった。このときの小出和男氏の「これを機に同窓会活動を活性化してはどうだろう」の提案が、その後の同窓会活動を変化させる契機となった。しかし、この小出氏の発言のきっかけになったのは、昭和 62 年正月に機械工学科で開催した、国清先生の退官記念祝賀会に電気工学科の卒業にも関わらずラグビー部でお世話になったからと他学科から一人参加された小出氏が 100 名ほど集った機械工学科の卒業生を見て、卒業生も少しは余裕ができたようなので、この輪をさらに大きくするために同窓会をどうにかしたいとの気持になったからである。

平成 2 年 8 月 12 日、秋に予定されていた学校の記念祝賀会前に同窓会総会を開催することになった。このとき役に立ったのが、機械工学科の岩淵先生が機械工学科 1 期生からの学生の就職先、現住所などをデータベース化しておられたことであった。同窓会のために役に立つならと全ての情報を提供していただくと共に、電気工学科と化学工学科のデータベースの作成も快く引き受けて下さった。このとき、国清先生の後任として学校に戻って来ていた機械工学科 9 期で岩淵先生の卒業研究生である入江司氏が事務局を樫村氏より引き継いでおり、岩淵先生の指導の下に同窓会名簿作成を手がけることになった。

実質はじめての同窓会は、母校で開催しようということになり、寮の横の第二体育館を会場として総会および懇親会を開催した。集った卒業生は 230 名。関東、関西など遠方の同窓生もほとんど卒業以来という母校訪問となった。会場は体育館であったために冷房設備はなく、全員に用意した団扇で扇ぎ、「生

ぬるいビール」に酔いしれながら高専時代を回想して楽しい時間を過した。今でも、あの「団扇」と「生ぬるいビール」は、同窓会復興の原点として語り継がれている。この年の秋には、岩淵先生手作りの同窓会名簿を発行することができた。



昭和 62 年 1 月 3 日、国清先生退官記念講義（高専階段教室）



受付は当時若いメンバーが担当



昭和 62 年 1 月 3 日、国清先生退官祝賀会

平成 3 年、同窓会復興の貢献者である電気工学科 1 期の小出氏が第 4 代会長に就任。従来の卒業時入会金と年会費制度では、事務局の負担も大きく年会費などは全く集めることができないとのことから、入学時に終身会費として徴収するように会則を改正する。この改正で収入が安定し、今まで活動しなくても全同窓生に対する郵送費用だけで会費がなくなるといふ状態から脱却でき、同窓会活動の次の展開が開始されることとなった。

(3) 本部

本部の体制は整ってきた。会則を見直し、総会を 2 年に 1 回の隔年開催とし、実質的な同窓会第 1 回総会が平成 3 年 8 月、今回からは「生ぬるいビール」はやめようとモノレース沿いにある富士見ホールで開催された。総会を担当する卒業期も 5 期ごとに決めて、担当になったときは担当期で総会参加者を積極的に募るようなシステムとしたのもこの総会が初めてであった。

以後、隔年で総会を定期的に開催し、平成 5 年 8 月第 2 回（富士見ホール）、平成 7 年には第 5 代会長に化学工学科 1 期の長野正美氏が就任、平成 8 年 1 月第 3 回（富士見ホール）、平成 10 年 1 月第 4 回（高専浩志寮）、平成 11 年 11 月第 5 回（富士見ホール）と回を重ねて各期が担当を一回りした。いずれも担当期の役員たちの努力により、100 名以上が常に集い合う総会が開催できた。

平成 1 2 年には機械工学科 5 期の青木輝男氏が第 6 代会長に就任。平成 1 3 年 1 1 月、本校がロボットコンテスト担当校のときに、ロボットコンテストの前夜祭も兼ねて、北九州市在住の北九州高専以外の全九州の高専卒業生にも声をかけて、鹿児島高専を除く全九州の高専卒業生が小倉ステーションホテルに盛大に集い合った。おそらく、全国高専で広域の高専生を対象に卒業生の集いを行なったの

は北九州高専同窓会が初めてであろう。これが、実現できたのも有明高専が発起人として開催されている「九州高専同窓会ファールム」に北九州高専も参加させていただいていたからである。



新生同窓会・第 1 回同窓会（H3・8・11）



第 1 回同窓会（2 期生の語らい）



第 2 回同窓会（H5・8・14）（アトラクション）



第 2 回同窓会（先輩後輩仲良く）



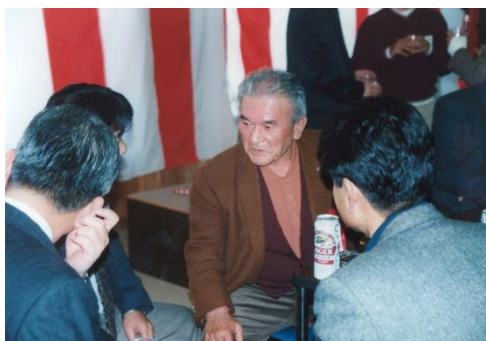
第2回同窓会（女性も多数参加）



第5回同窓会（緒方先生、応援団の学生に感謝の涙）



第4回同窓会（H10・1・2）（浩志寮）



第4回同窓会（剣道岩永先生と弟子学生）



第5回同窓会・高専祭で機械1期一里塚、8期永留氏、記念講演会開催（H11・11・6）

（4）支部結成

ここにもう一人、岩渕先生から影響を受けた同窓生がいる。学校の25周年祝賀会に参加したおり、「一期生、酒ばかり飲んでいないで、この辺で同窓会をまとめよ」と言われた機械工学科1期の入沢仁氏である。そこで、まず入沢氏が在住している関東支部から結成しようと入沢氏を支部長とした関東在住の同窓生が連携をとって、平成3年10月銀座のビヤホールで関東支部結成式を開催した。これには、機械工学科の佐藤淳一先生、岩渕先生、電気工学科の熊谷先生、化学工学科で千葉在住の金崎先生と一般学科の坂口先生が遠路参加いただいている。

支部結成請負人となった入沢氏は次に関西支部結成を企画。同期の機械工学科1期の甲斐田敏氏を支部長にたのんで、平成4年10月大阪梅田にて関西支部結成式が開催される。このときは、機械工学科の佐藤淳一先生、岩渕先生、村井先生、電気工学科の熊谷先生、田中先生、化学工学科の金崎先生、一般学科の赤毛先生とともに「税金ドロボー！」で同窓生から最も招待要請が強い国語の徳満先生に高知から馳せ参じていただいた。残念ながら若くして亡くなられたラグビー部全国優勝3連覇の立役者で社会人ラグビーで活躍された機械工学科5期の伊倉博史氏が北九州高専へエールを送るシーンが印象的であった。



関東支部結成・恩師ともに (H3・10・5)



関西支部結成(故機械5期伊倉氏のエールが大阪の街に響きわたる)



関東支部結成(故岩渕先生との語らい)



第2回関西支部同窓会・やんちゃだった?機械24期大北氏(最前列)も立派な社会人に(H12・12・2)



関西支部結成(H4・10・3)(大阪梅田)

つづいて、少し期間をおいて、平成11年3月、学生会歌作詞者の機械工学科1期の一里塚博氏を支部長にたのんで、名古屋での東海支部結成式が開催された。このときは、残念ながら岩渕先生は亡くなられていたが、坂本校長、機械工学科の松村先生、村井先生、一般学科の日高先生、さらに旧教官として塚本先生と岐阜大に転任された国語の森下先生の参加をいただいた。このときは、機械工学科の松村先生、村井先生の退官をお祝いする意味も含まれており、翌日は桜花爛漫の名古屋城見学なども企画された。

また、福岡支部は、年末の不定期に開催していた忘年会が発展し、機械工学科5期の弥重文朗氏を支部長として、北九州本体と連携して活動を行なって

いる。

幻の支部結成の物語がある。対象同窓生は少ないが、広島を中心として中国支部結成の話が平成15年にあった。事前の準備会を広島で開いてお好み焼きを食べながら話が弾んだが、発起人である機械工学科2期の成鎬伸氏が急遽転勤となり、支部結成は幻となった。

関東支部は、その後定期的に集まるようになり、平成9年5月2日には、東京での北九州市主催の東京フェアに同窓会として協賛し、東京北九州市人会のレセプションに高専の法被を着て参加し、多いに会を盛り上げることに貢献した。そのときの司会が門司区出身でNHK看板アナウンサー宮本隆治氏



福岡支部懇親会（博多にて）

であり、参加した同窓生は日曜日のNHKのど自慢を見るたびにそのときの光景を思い出しているようである。翌3日には本校元学生課長の猿渡氏の支援により代々木のオリンピック記念青少年総合センターで同窓会を開催、英語の上杉先生ご夫妻など多くの先生も参加していただいて結成式よりはるかに多くの参加人数となった。支部長も電気工学科1期の山市良造氏、化学工学科1期の古江俊一氏、機械工学科5期の久保安弘氏と引き継がれている。



東海支部結成（H11・3・27）（名古屋市内）



恩師と名古屋市内観光



東京での北九州フェアに協賛（H9・5・2）（末吉市長と学校・同窓会関係者）



宮本アナウンサーとツーショットは誰でしょう？



関東支部総会での恩師（熊谷先生、金崎先生、岡先生）および同窓会役員の面々（H12・4・15）

また、関東支部では、機械工学科 6 期の井尻康雄氏が福島県会津高原で経営しているペンションを利用しての懇親旅行を年 2 回開催している。東武浅草駅集合での列車の旅、一泊二日の懇親旅行でゴルフをするメンバー、尾瀬、紅葉などの観光を楽しむメンバーと大いに日頃のストレスを解消しているようである。家族から「ちょっと、あなたの学校同窓会多すぎない。男子校でしょう？。普通はあっても何年かに一回よ」と、家族からあきれられている同窓会にはまっている会員が多いのも特徴である。



恒例の関東支部会津懇親旅行（機械 6 期の井尻氏・後方左のペンション前）



尾瀬への観光

（５）ロボットコンテスト応援（プロジェクト X）（敬称略）

1988 年（昭和 63 年）8 月 11 日、NHK/CT-101 スタジオ、NHK ロボットコンテスト第 1 回大会、乾電池カー・スピードレース、乾電池 2 個で体重 60kg 以上の人を乗せ、35 メートルのコースでタイムを競う競技である。全国の高専にアイデアを募り、名乗りをあげた 24 校の中から 12 校が選拔された。その中の一校に機械工学科村井率いる北九州高専チームがあった。ロボットコンテストの存在すらまだ誰も知らないときであり、校内でも、「また、村井が学生と一緒に遊びよる」程度で誰も相手にしなかった。しかし、機構学が専門で、当たったとはいえないがいくつかの特許をもつアイデアマン村井には、

この企画がいつかは高専にとって重要なものになるとの直感がはたらいた。これは、今や高専といえ
ば「ロボコン」と言われるまでになったロボットコン
テストにかけた北九州高専の男達の挑戦の物語
である。

第1回から何度挑戦しても勝てない村井だったが、第4回大会での九州大会で「アイデア賞」を獲得し、実力で初めて全国大会出場を果たした。このときから全国大会は両国国技館、「めざせ・国技館」の始まりである。まさか、全国大会に行くとは思ってもいない学生主事の日高は、全国大会に行き応援が全くないでは形にならないと、同窓会の入江に「入江君、東京の方で応援できないかの～」と話をもちかけてきた。その年の10月、偶然にも関東では入沢が同窓会関東支部を立ち上げていた。入江は「入沢さん、最初の仕事です。村井先生がロボットコンテストで両国に行きます。応援団を結成して下さい」と電話した。「わかった、皆に声をかけてみよう」全国大会の結果は1回戦敗退。皆はがっかりした。それでも「いつでも来いよ。皆待つとるからな」むなしい入沢のエールが館内に響いた。

それから何度挑戦しても九州大会すら勝てない。そのとき入江は言った。「村井先生、僕にもお手伝いをさせて下さい」そのとき入江は村井の学生との取り組みに感動していた。資金は大会本部から支給されるわずかな金額、到底その何倍もいることはわかっている。ロボット製作を卒業研究のテーマにして、自分の研究費から物品を購入していた。帰りが遅くなり、交通機関がなくなると必ず学生を自宅まで送り届けていた。

1996年（平成8年）第9回大会、10月の九州大会、会場に入り審査員が紹介されたときに入江は「もしかしたら」と予感した。到底勝てるマシンではないが、一発勝負の荒業マシンである。マシンの名前は「ファイト一発号」、戦える武器は一発の

発射装置のみの極めてシンプルな構造であった。

「ファイト一発号」は、勝つときは相手を秒殺したが、手元が狂って的中に入らなければ一発で終わりである。それでも3回戦まで進みベスト8の結果で競技を終えた。いよいよ、全国大会出場校発表、「アイデア賞・北九州高専」、読み上げたのは特別審査員のプロレスの大仁田厚、入江の読みどおりだった。

11月17日、両国国技館での全国大会、1回戦第一試合。スタート5秒前、3・2・1・スタート、歓声と共にマシンは発射地点まで動くはずだった。ところが、スイッチを押しても動かない、応援団から声があがった。「電源がはずれてるぞ～」、大相撲の開催される会場である。学生は頭の中は真っ白で、気づいたときにはスタートから30秒が経過していた。相手チームは順調に的中を獲得している。それでも前日の夜のリハーサル、もしかしたら北九州が行くかもしれんなどのNHKの関係者を心配させていたほど決まっていた「ファイト一発号」、いかないわけには行かない。「行け～」の応援の声と共に発射された。勢いよく飛び出した輪だったが、的中をわずかにはずした。番組としてはよかったかもしれないが、かけつけた20名の関東支部からはおもわずため息がもれた。そして、笑いに変わった。「さあ～行くぞ」入沢は皆を引き連れて、両国駅前のちゃんこで遠来の恩師と学生を交えて慰労会をした。これが、「ロボコンちゃんこ」の始まりとなった。



ロボコン「ファイト一発」組（H8・11・17）



両国駅前、「ロボコンちゃんこ」の始まり



全国大会アイデア賞 (H9・11・23)

村井、入江ではこれ以上は無理だ。助っ人を呼んだ。電子制御の吉野、制御情報の機械工学科21期の久池井である。1997年(平成9年)第10回大会、九州大会から同窓会で応援ツアーを組んだ。鹿児島まで高専バスで、関係者・同窓生が前日から乗り込んだ。結果は実力のアイデア賞で全国大会出場である。11月23日、全国大会でも実力を発揮し、初めて「全国アイデア賞」を獲得した。「ロボコンちゃんこ」の盛り上がりはすごいものとなった。



全国大会優勝祝賀忘年会

その後、第14回大会「全国技術賞」、そして第15回大会で「全国優勝」の栄誉に輝いた。入沢は後輩の中村と久保に言った。「苦節12年、後輩から勇氣と歓喜をもらった。年末の忘年会はNHKの放送を見ながらの企画を考えろ」宴会場にテレビを持ち込んだの祝勝会となった。一瞬だが、村井も入江も入沢もテレビに写っていた。満面の笑みだった。



学生達に援助

その後も母校の活躍は目覚しく、九州大会では常勝。学校もロボットコンテスト支援委員会を設けて学校上げて支援している。村井の感が当たった。

同窓会には気がかりなことがある。九州同窓会で仲良くしている高専で唯一全国大会に行ったことがないチームがある。大分高専よ、今年こそ全国へ行ってくれ、北九州と共に。



後輩達よ、夢をありがとう

（６）同窓会名簿・会報

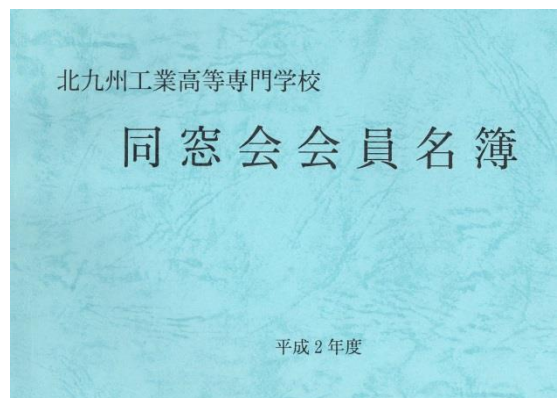
岩渕先生の協力で発行した平成２年の同窓会名簿であるが、毎年増える会員とともにより正確な情報の名簿へと進化させる必要があった。平成４年、平成２年に発行した名簿を見た同窓生から多くの情報が寄せられたので岩渕先生のソフトをお借りして名簿を発行した。しかし、このまま増えつづける会員の掌握を事務局一人に対応するのはもう物理的に限界に来ていた。平成５年４月１４日の岩渕先生の計報はそれを決定的なものにした。

そんなとき同窓会専門の名簿業者の若い営業マンが事務局を訪ねてきて、「九州の他の高専の同窓会名簿をてがけております」と名簿作成の話がもちかけられ、役員会で業者委託を決定した。現在は、九州の最も多くの高専を担当している小野高速印刷に名簿管理を委託している。その後、同窓会名簿は平成６年、９年、１２年、１５年と発行し住所判明率も９０％近くになってきた。ただ、名簿は重要な個人情報であり、名簿発行にあたり、多くの同窓生から苦情が届くのも事実である。しかし、同窓会活動を維持していく上で名簿は生命線であることを何卒理解していただきたい。委託業者も個人情報保護法に基づく資格を取得している。

名簿と共に同窓会の会報を発行し情報を発信するのも同窓会の大きな役目である。そこで、平成４年、植田校長先生に会報の名称である「雄志台」の揮毫を書いていただいて、創刊号を発刊した。その後、平成７年まで続けて発刊することができたが、これも継続するためにはかなりの支障が生じてきた。一つは、原稿が集まらないことと、当時は編集に時間を要したことであるが、何よりも印刷代と郵送費に費用がかかりすぎるようになったことである。会の諸行事も増え、ところある多くの同窓生の寄付によりどうにか運営ができていたが、毎年の会報の発行は断念せねばならなくなかった。記念事業の時には発

行したいと計画している。それに変わるものとして、インターネットのホームページがある。高専が独立行政法人に移行するまでは、同窓会は外部機関であるので、学校のホームページの中に設けるのは好ましくないという時代があったが、独立行政法人になり、学校と同窓会の連携が言われるようになって、学校から同窓会の情報をホームページを通じて発信できるようになった。まだ、事務局自身がホームページ作成に十分な知識がないが、今後、充実したホームページで会員への情報発信を行なっていきたい。

<http://www.kct.ac.jp/alumni/> で公開されている。



岩渕先生と手作りで仕上げた同窓会名簿



同窓会会報「雄志台」創刊号

(7) 学校との関係

会則により、校長先生が同窓会の顧問を引き受けて下さっている。平成2年からの同窓会再興は、当時の植田先生の同窓会への配慮があって実現できた。坂本校長先生ときは、同窓会活動も全盛で、関東支部はじめ種々の行事に遠方までお付き合いしていただき本当に感謝している。

反対に学校から要請がある場合はできる限り対処している。平成6年1月の韓国裡里大学との交流会には後援会と協賛して歓迎させていただいた。また、12月の中国揚州大学との交流会でも同様に協力させていただいている。今となれば、ハングルや中国語が使える同窓生を参加させた方が良かったと思うが、当時は言葉の壁を感じつつも、懇親が得意のメンバーばかりが出席したのもこれから考えていきたい。

また、学校の外部評価委員会のメンバーの一人に同窓会会長が選出されていることも学校と同窓生の関係から非常にうれしいことである。

因みに第4代同窓会長の小出和男氏、第5代同窓会長の長野正美氏は子供さんも高専生となられたために同窓会長終了後は後援会長も務められ、永年にわたっての学校への貢献が評価されて、学校から感謝状をいただいたことも同窓会として喜びにたえない。

現在は、校長先生のほかに、永年同窓会を応援していただいた、元学生主事の日高先生、前学生主事の大津先生に同窓会の相談役として支援をいただいている。



韓国裡里大学との交流会（H6・1・15）



中国揚州大学との交流会（H6・12・11）・右から2番目
当時副会長の機械2期立花氏



韓国裡里大学と姉妹校締結

昭和 40年 4・24 開校

48年 3・ 同窓会設立・初代会長 香月洋一

52年 4・1 二代会長 木下学

56年 4・1 三代会長 吉田充

平成 2年 8・12 創立25周年記念同窓会祝賀会（体育館）・同窓会名簿発行

3年 4・1 第4代会長 小出和男

8・11 第1回総会・懇親会（富士見ホール）

10・5 関東支部結成式（銀座ライオン）

4年 10・1 同窓会名簿発行

10・3 関西支部結成式（大阪梅田）

5年 8・14 第2回総会・懇親会（富士見ホール）

6年 1・15 韓国裡里大学との交流会・同窓会名簿発行

12・11 中国揚州大学との交流会

7年 4・1 第5代会長 長野正美

10・21 創立30周年記念祝賀会

8年 1・2 第3回総会・懇親会（富士見ホール）

11・ ロボコン全国大会応援団派遣

9年 5・3 関東支部同窓会（オリセン）・同窓会名簿発行

11・ ロボコン全国大会応援団派遣（アイデア賞）

10年 1・2 第4回総会・懇親会（高専浩志寮）

3・21 岩渕先生追悼同窓会

11・ ロボコン全国大会応援団派遣

11年 3・27 東海支部結成式

11・6 第5回総会・懇親会（富士見ホール）

12年 4・1 第6代会長 青木輝男・同窓会名簿発行

4・16 関東支部同窓会（オリセン）

12・2 関西支部同窓会

13年 11・3 第6回総会・九州合同同窓会

11・25 ロボコン全国大会応援団派遣（技術賞）

14年 11・24 ロボコン全国大会応援団派遣（優勝）

15年 11・23 ロボコン全国大会応援団派遣・同窓会名簿発行

16年 1・3 第7回総会・懇親会（小倉ステーションホテル）

11・ ロボコン全国大会応援団派遣

17年 10・16 創立40周年記念総会・祝賀同窓会